

市の重点課題	学校の重点項目	自己評価	達成状況	学校関係者評価委員会から	改善の方向
希望あふれる未来を自ら拓く力を育むための教育課程の編成	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレット端末を自己表現のツール、対話的な学習の道具として活用し、デジタルとリアル双方で、主体的かつ協働的な学習を推進する。 ・家庭での自主学習「わく勉」の継続的な取組と質の向上を図る。 ・自他の生命の尊厳への理解を深める学びを推進する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレット端末の活用の中で、それぞれの児童の考えを交流する場面などで積極的に活用することができた。 ・自主学習「わく勉」については84%の保護者が、児童は92%が自分の力で取り組めていると評価している。 ・スマートトークを位置付け、英語に親しみながら学習することができた。児童の85%は英語でコミュニケーションをとることが進んできたと評価している。 ・道徳などの教科、学活など全教育活動を通して生命の尊厳への理解を深めるよう努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・落ち着いた学習姿勢で課題に取り組むことができていた。 ・自主学習については、こんな内容に取り組むとよい、という具体例を挙げると分かりやすいのではないかと。 ・英語活動の取組の様子を保護者が分からないので評価しにくいこともあるのではないかと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレット端末を活用することで、交流しやすい場合もあるが、他の方法も経験させることは必要である。探究する過程で何が効果的か、研究推進の場で検証していく。 ・授業参観等の機会をとらえ、英語の授業の様子を保護者に知らせ、家庭でも話題になるようにしていく。
コミュニティ・スクールの機能の充実と岐阜市型小中一貫教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・「ぎふMIRAI's」を軸にして、華陽地区の人・もの・ことを知り、探究的に学び、華陽の一員としての自己の生き方を考える。 ・梅林中との連携を継続し、「華陽防災教室」などの活動で小中一貫教育を推進する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティ・スクールの機能を生かして華陽地区の人・もの・ことを活用した学習に取り組むことができた。コミュニティ・スクールとの連携については98%の保護者ができていると評価している。 ・防災教室、生徒会サミットなどの取組の中で、中学校との連携を図ることができた。また、研究授業の公開をすることで、教職員の学びの場が広がった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・PTA・地域の方の協力のもと様々な体験を伴った活動がそれぞれの学年で計画されており、すばらしい。 ・地域の方への挨拶が、学年が上がるほど羞恥心もあるのか小さくなるのが気になっている。地域の方とのかわりには、自分の身を守るためにも必要だと感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・CSボランティアを活用した授業を位置付けるためには、事前の打ち合わせが不可欠であるため、年間計画を立てるときに見直しをもつ。 ・各学年の取組内容を交流する場を設ける。
あたたかさや働きがいにあふれる学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・業務内容を見直し、ICTを効果的に活用することで、子どもと向き合う時間を確保する。 ・会話・対話ができ、温かい雰囲気職員室経営を推進する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ロイノート等の活用により、教材作成の時間を短縮したことで、時間の余裕を生み出した。 ・職員間はお互いに声を掛け合い、助け合って業務に取り組むことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・先生方は、学級の児童の様子に合った指導過程の工夫をされている。 ・個別の支援が必要な児童も多い中、よく対応していただいている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTの効果的な使い方については、ICT活用推進教師を中心として、職員間で情報交流を行いよりよい活用の仕方を探る。 ・職員室で仕事がしやすくなるよう、気軽に声を掛け合える雰囲気づくりをしていく。
子どもたちが安心して学べる学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・「あつたかハートタイム」「にこにこ宣言」などの活動を通して、いじめを許さない、居場所がある「華陽笑・楽・幸」をつくりだす。 ・生徒指導交流を通して、教職員間で児童の共通理解を図り、いじめ・不登校等の未然防止・早期発見・早期対応を行う。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・「あつたかハートタイム」「にこにこ宣言」などの活動を通して、教職員と児童が一体となって「いじめを許さない、居場所がある華陽笑・楽・幸をつくりだそうと取り組んだ。いじめ防止の取組について97%の保護者ができていると評価している。 ・教育相談活動を通して、いじめや不登校等の未然防止に取り組んできた。アンケートを活用し、教育相談週間を位置付けた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめの事案についても聞き及んでおり、学校だけでなく、地域みんなで見守っていききたい。 ・教育講演会など地域と連携して開催できるとよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめについてはあるものにとらえ、さらに未然防止・早期発見・早期対応に努めていく。 ・児童自身がいじめについて考える場を設け、委員会を中心に具体的な取組を継続して行えるよう、現在の取組の見直しを行う。
災害、事故に対する安全性の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・危機管理意識を高くもち、素早く・的確に・誠実に対応することを心がけ、児童の命を守る。 ・実効性のある命を守る訓練に取り組む。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な安全点検の他に、危険箇所が見つかったときにはすぐに報告を上げ、臨時の対応を行い、修繕等の対応を行うことができた。 ・普段の生活に即した設定で、命を守る訓練を行うことで、実際に災害が起きた時に必要な行動を身に付けることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・通学路ワークショップにより、各団体が通学路の安全性について点検、検討し、改善案をまとめ少しずつ改善できるようになってきている。道路をこれ以上広げることではできないため、安全に気を付けて通行する指導も必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・安全点検の担当者を固定するのではなく、違う目で見ることさらに安全性を高めたい。 ・児童も教職員も物を大切に扱うことを今一度確認し、徹底する。
教育環境と学校財務環境の整備及び効果的な活用	<ul style="list-style-type: none"> ・学校財務が適正かつ正確に行われるよう、ダブルチェック以上を行う。 ・物品を大切に使用する意識を教職員も含めた学校全体で高める。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・会計の処理については、随時確認の声掛けを行い、的確な処理ができていることを確認し合った。 ・長期の休業日などを活用し、備品の点検と不用品の分別を行うことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・会計処理については多くの目で確認することが必要。 ・ドアの立て付けが悪い部分があるため、修繕するとよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年の会計については、年度当初の会計委員会において購入計画の内容を確認し、適切な徴収金を決定する。 ・各教科主任が備品管理に責任をもち、廃棄も含め、報告の上で適切に処理をする。